

大明教育 実践の評価 <集計結果と考察>

評価のねらい

- ◆27年度末の実践の評価および1学期の実践の評価を踏まえ、今年度の課題を明らかにする。
- ◆小中連携及び学校・家庭・地域の連携・協働の場を探る。

<評価方法について>			
◇A-よい B-ふつう C-改善が必要 の3段階で評価			
◇<気がついたこと>には、C評価を中心に率直な意見を記述してもらった。			
評 価 項 目	評 価		
	A	B	C
1. 教育目標について			
① 学校教育目標・指導重点は適切か。 ○あいさつのできる ○そうじのできる ○授業に集中できる ○落ち着いて生活できる	17	2	0
② 学校教育目標が学年学級経営や教科指導に具現化されているか。	13	4	0
③ 学校教育目標や経営方針が児童や父母に理解されるよう配慮されているか。	12	6	0
<考察> ・本校の教育目標及び指導重点については、継続したものであり、生きる力を育成することを目標にしている。 ・学校教育目標などが児童・保護者に理解されるよう配慮されているという設問で、前年度より向上が見られる			
<改善策1> ・これまで様々な集会や保護者の集まる会議の中で繰り返し言葉として伝えた。また、学年通信や学級通信に常に表示されるようにしている。この2点を中心に、これからも継続していく。			
2. 経営・組織			
① 学校運営に関する連絡・調整はスムーズか。	13	6	0
② 職員会議は学校運営に適切に機能しているか。	14	4	0
③ 学年打ち合わせが十分できているか。	15	0	1
④ 研究主題は、学校課題に合った適切な内容であったか。	14	4	0
<気がついたこと> ・時間短縮で記録に残すようPC活用をしており、一定の成果はある。読めばわかる内容でも口頭提案をしていることがあるのと、文書提案ではそれを読まない状況も増えているように感じる。 ・支援が必要な学年が優先になることは当然だと思う。その一方で、それぞれの学級にいる、個別に学習への支援が必要な児童への対応も考えていただきたい。 ・教務主任が学担に入ったことにより、教務と担任を兼務しているため学年部の打ち合わせ時間がとりにくい。教室で打ち合わせしたりメモを活用するなりして対応している。			
<考察> ・全体的には、管理職を含めた職員の協力体制により学校運営や学年運営、職員会議や校内研等、連絡調整や運営がスムーズに行われているという結果であった。			

3. 教育課程 (1) 全般			
① 教育課程に本校の特色は生かされているか。	14	5	0
(2) 各教科・総合的な学習			
② 教科指導は、教材研究・事前の準備等を行い、わかる・楽しい授業に心がけたか。	13	2	0
③ 創意工夫のある授業実践を通して、自ら学ぶ意欲と態度を育てることができたか。	5	10	0
④ 各教科の授業時数は確保できているか。	11	2	0
(3) 道徳			
⑤ 教科や他領域との関連に考慮がはらわれているか。	9	4	0
⑥ 道徳的实践・道徳性などが高められていると思うか。	2	16	1
(4) 特別活動(学級活動・児童会活動)			
⑦ 学級活動は、自主的・自発的に運営されたか	4	8	1
⑧ 児童会活動は、自主的・自発的に運営されたか。	15	4	0
(5) 学校行事			
⑨ 学校行事は適切に計画的に実施されているか。	14	5	0
⑩ 学校行事は、学校生活に活力を与えるよう計画運営されているか。	14	5	0
〈考察〉 ・創意工夫のある授業実践を通して、自ら学ぶ意欲と態度を育てるについて、高められていない又はまだ十分ではないと考えている先生が多い。 ・道徳的实践力・道徳性などが高められていない又はまだ十分ではないと考えている先生が多い。 ・学級活動に自主的・自発的な運営・活動を期待している先生方が多くいた。 ・その他の設問についてはおおむね良好な結果であった。			
〈改善策2〉 ・項目2.の④で、校内研究の運営に関しては、肯定的な評価が多かった。そのことをもとに、2学期以後、授業内容が充実してくることが期待できる。道徳教育は、2学期にふれあい道徳の取り組みがある。その機会を中心に、道徳の授業や教育活動全体を通して指導していくことを常に意識していく。			
4. 学級経営・生徒指導			
① 児童との心のふれあいを深め、豊かな人間関係を築く学級づくりに取り組めたか。	8	4	1
② 職員が共通理解をもち生徒指導を推進しているか。	16	3	0
③ 支援委員会を中心とした支援は適切に行われたか。	11	8	0
〈気がついたこと〉 ・問題がおきた時、生徒指導担当が中心となり速やかに対応してきた。事後の全体への連絡もしっかりと行っていただけたので、共通理解が図れた。 ・生徒指導主任が中心となって、問題をだし取組むよう働きかけたことで、共通理解のもと指導に当たれた。			
〈考察〉 ・どの設問についても概ね良好な結果となっている。			
〈改善策3〉 ・支援が必要な学級、学年に対して、人的サポートも含め、全体対応する形が取れていたと思う。今後、サポートを必要とする部分が増えたとすれば、物理的に無理が生じてくる。日頃の学年や学級経営を充実させ、その中で学年部での協働体制を、より一層徹底してのぞむようにしていきたい。			

5. 家庭・地域社会との連携

① 授業参観・懇談会は適切だったか。(回数・内容・出席率)	12	5	0
② PTA活動は目標達成のため計画的に展開されているか。	14	5	0
③ 児童の登下校時において安全が確保されているか。	8	11	0
④ 学校応援団を有効に活用できたか。	12	6	0

〈気がついたこと〉

- ・学校ボランティアの方に授業協力していただき、大変ありがたかった。
- ・プールの監視に来校してくれる保護者がいて、とても助かっている。
- ・登下校の見守り隊の方々の毎日の奉仕活動により、地域で守られていることを感謝したい。

〈考察〉

- ・PTAや地域の方々の協力によって、教育活動がスムーズにかつ安全に行えることができた。
- ・学校支援ボランティアの活用が増えた。
- ・児童の安全な登下校の運営について、やや不十分と感じている先生が多い。

〈改善策4〉

- ・本年度、集団下校をより充実させる目的で機会を絞って対応すること、放送担当児童の安全確保のために放送当番による下校放送の廃止の2点を変更した。いずれもその目的を考えれば、効果が認められる。しかしながら、下校時刻が過ぎているにもかかわらず校庭で遊び続ける児童が見られる状況もあった。7月中旬には、近隣で不審者が出没した事案も発生し、終業後すみやかに複数下校をすることと職員によるパトロールを実施する対応を取った。各授業等の時間を守ることについては成果を上げているので、下校時刻の徹底も同様にできるよう全校体制である。

6. その他

① 子どもたちは、あいさつができていたか。	4	14	1
② 給食中のすごし方やマナーに問題はないか。	2	10	1
③ 清掃指導にしっかり取り組めたか。	11	7	0
④ 読書意欲を高めるような指導ができていたか。	9	7	0
⑤ 保健指導がしっかりできていたか。	9	7	0

〈気がついたこと〉

- ・清掃の見回りを箇所が多く、児童に取り組みさせることが大変だが、特別教室を他の先生に担当していただけることで、教室、廊下の清掃が、より児童とともにしやすくなった。

〈考察〉

- ・清掃活動は、前年度に比べ大きな向上傾向がみられる。

〈改善策5〉

- ・子どもたちのあいさつやマナーは、児童会を中心とした高学年(6年生)の自主活動と職員の共通した指導によって、少しずつ向上している。今後とも、継続をしていくことが大切であり、当たり前のことが当たり前に行えるような児童を育成していく。